

学生が創る、無理なくごみを減らす社会の仕組み

「減装（へらそう）ショッピングと未来へ」シンポジウム

産官学民全員で今後の意気込みを発表します！！

【日時】 2012年6月11日（月）13：30～15：00 **【場所】** 環境省第1会議室

特定非営利活動法人ごみじゃぱん（所在：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学内／代表：神戸大学大学院経済学研究科教授 石川雅紀）は、包装ごみの少ない商品を選ぶ買い物基準を普及させ、日本のごみを減量するプロジェクト「減装（へらそう）ショッピング」を、神戸大学の学生がリーダーシップをとり、神戸市内で2007年2月より実施しています。実践開始より5年を迎え、初めて神戸の地を離れ、大垣市でも実践するなど、その成果が積み重なってきました。容器包装リサイクル法の改正を間近に迎え、これまで取組が遅れていたリデュースを無理なく実現させるため、今後ますます減装ショッピングを拡大進化させます。共に創りあげてきた協働メンバーである産官学民の皆さんと共に、今後の意気込みを発表します。

■資料目次

1. ヘッドライン・・・・・・・・・・・・・1
2. 開催概要・・・・・・・・・・・・・2～3
3. 活動成果発表・・・・・・・・・・・・・4～9
4. 減装研究会について・・・・・・・・・・・・・10
5. ごみじゃぱん概要・・・・・・・・・・・・・11

■添付資料

- ・リオ+20に向けた学生からの提言
- ・減装宣言
- ・容器包装リサイクル協会ニュース No. 57号
- ・減装マグネット

■日時

6月11日 13:30～15:00

■場所

環境省第1会議室

(東京都千代田霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館 22階)

■アクセス

東京メトロ 丸の内線「霞ヶ関駅」B3出口

東京メトロ 千代田線「霞が関駅」C1出口

東京メトロ 日比谷線「霞ヶ関駅」B3・C1出口

■プログラム

1. 環境省よりご挨拶 (5分)

森下哲 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室 室長)

2. 開催の経緯説明 (5分)

石川雅紀 (ごみじゃぱん代表/神戸大学大学院経済学研究科教授)

3. 2011年度減装ショッピングの成果発表(15分)

生田萌奈美 奥田翔太郎 (ごみじゃぱん/神戸大学経済学部3回生)

4. リオ+20に向けて学生からの提言 (10分)

横山大輔 (ごみじゃぱん/神戸大学経済学部3回生)

5. パネルディスカッション (55分)

6. 減装宣言 大岡裕平 (ごみじゃぱん/神戸大学経済学部3回生) とパネラー

7. 質疑応答

(全体司会進行 ごみじゃぱん 田中未来里/神戸大学経済学部4回生)

【パネル参加者】

- ・河田智宏氏 (ごみじゃぱん/神戸大学経済学部4回生)
- ・高尾ひろこ氏 (神戸市北区連合婦人会 副会長)
- ・奥田陽子氏 (大垣市環境市民会議 事務局次長)
- ・野口敏光氏 (株式会社ダイエー 総務人事本部 副本部長)
- ・百瀬則子氏 (株式会社ユニー 業務本部 環境社会貢献部 部長)
- ・松村明彦氏 (日本ハム株式会社社会・環境室室長/減装研究会会長)
- ・上山静一氏 (流通環境経営研究所 代表)
- ・森下哲氏 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室 室長)
- ・渡邊厚夫氏 (経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長)
- ・佐竹健次氏 (農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室室長)
- ・石川雅紀 (NPO 法人ごみじゃぱん代表) 司会



■本シンポジウムの内容

これまで実施してきた減装ショッピングの成果発表を行うとともに、学生たちから、未来の自分たちに向けた環境問題解決のためのメッセージをお伝えいたします。**問題に直面している生活者、小売り、メーカー、行政の皆さんと共に、減装ショッピングのこれからを語ります。**目標の達成に向けた**具体的な力強い足取り**をみていただければと思います。ごみの発生抑制は、優先順位が高い項目でありながら、その突破口となる具体的な実現策がなかなかみつからないでいました。その**難しい課題に、産官学民がそろって本気で挑戦している取組**です。産官学民の協働企画は、形骸化されているケースが多いといわれていますが、今回の取組が泥臭いが、全員が現実的に動いているかを知っていただき、そのリーダーシップを学生が行っていることにご注目いただくことで、震災後閉塞感さえ漂い、持続可能な社会の具体的なビジョンが見えない状況の中で、日本の未来に、少しは明るい兆しをお届けできるのではと思っています。

シンポジウムの最後には、今後の新たな企画についても発表いたします。

是非多数のご参加と、より多くの皆様にお伝えできれば幸いです。

・減装ショッピング成果発表と今後の活動

2007年より実施して参りました減装ショッピングの活動内容を振り返ります。減装商品に印刷される減装マークの実験成果と今後、行政・各市民団体との連携、産官学民との協働の実現、GPN500万人による一斉行動減装計画についてもご紹介いたします。

・提言

1992年リオサミット当時、セヴァン・スズキさんのスピーチの中の未来の子供たちと呼ばれていた私たちが20年の時を経て彼女の願いもふまえ、日本国民全員が環境問題を意識した行動をとって欲しいということを提言します。リオ+20を意識し、‘Act Locally’を実践をしている学生から、未来の自分たちに向けた環境問題解決のためのメッセージをお伝えいたします。

・パネルディスカッション

容器包装廃棄物の発生抑制を無理なく実現するという一つの目標に向かって、現実の今を動かしている生活者、小売り、メーカー、国・行政の皆さんと共に課題を共有しながら、それぞれの立場で今後の意気込みを発表します。

活動成果発表

■取り組みの背景と概要

日本の容器包装のリサイクルは着実に進み、平成 22 年度のリサイクル率は 20.8%に達し、埋め立て量は 10 年間で約半減しています。しかし、リサイクルには多額の費用がかかっており、社会的コスト削減のためにもごみの発生抑制が必要です。ごみじゃばんは、日本の容器包装ごみに着目し、2007 年、2008 年、2009～2010 年、2011 年の実験を通じて、生活者が商品選択の際にごみ問題やリサイクルの費用などに気がつけば、より簡易な包装を選択することを実証してきました。

取組のきっかけは、石川が座長を務めた委員会で、生活者は普段の買い物で包装ごみを意識しないが、簡易な包装の社会的なメリットを説明されると、包装の簡易な商品を選ぶとの調査結果が得られた事です。簡易包装は事業者にもコストメリットがある一方、販売面での懸念が障害でしたが、解決の可能性が示されました。これを実証し、社会への定着を目的に、2006 年 NPO 法人ごみじゃばんを設立しました。神戸大学の学生が主体となり、事業者・行政・大学・地域団体の協力・支援を得て、減装（へらそう）ショッピング事業（以下本事業）を展開してきました。

本事業では、商品を生活者目線で分類、中身当り包装重量が軽い商品を減装商品として商品棚でカードで表示、推奨します。意識（アンケート）、実際の行動（販売データ）を分析し、約 1 割程度の販売促進効果を実証してきています。このような長期間実規模で行動レベルの実証を行った事業は世界的に見ても殆どありません。

2007 年 1 店舗 1 ヶ月（コープこうべ）の実験から 2009、2010 年には、ダイエー、イオンの協力も加え、3 店舗 12 ヶ月、2012 年にはユニー、ドラッグユタカの協力により大垣市で実験開始し、全国展開を目指し規模拡大中です。

2011 年には、ダイエーが神戸市内直営全店舗（22 店舗、無期限）で、将来の拡大を見据えた活動を開始していただき、本事業は実験段階を脱し神戸市内での定着というステージに上り、大きな前進を遂げました。

さらに、2011 年山崎製パンと協力し、推奨基準を満たす製品へのマーク印刷実験事業を開始。7 商品を半年累計 740 万個全国販売、プラスチック包装の削減量は約 14t になりました。商品へのマーク印刷というステージにも踏み込み、草の根ブログで好意的に取り上げられる等、全国での認知拡大も始まっています。

さらに 2011 年に、神戸市と「簡易包装の商品の推奨に関する協定」を結びました。神戸市は環境に配慮した小売店舗を認定する基準として、本事業への参加を認定条件の一つとして採用、市民への啓発・認知の拡大に貢献しています。

■ 取り組み詳細

～減装商品の推奨作業～

消費者にどの商品が容器包装の量が少いかを提示するために、スーパーマーケットで販売されている商品を購入し、中身を取り出し、容器包装の重量を計測して、商品ごとのデータを作成します。



(写真1：容器包装の中身出しと拭き)



(写真2：電子天秤で計測しデータ化)

得られたデータベースを元に、その商品カテゴリー（カテゴリーはごみじゃぱんの任意。）の**中身あたりの容器包装量ランキング**を作成し、**上位 30%程度をごみじゃぱんの「推奨商品」**とし、写真3のように**POPで目印を付けます**。現在までに計測を行ったカテゴリー一覧は、下記の表をご参照ください。

さらに写真4～6のようにポスターやイベント等の啓発活動を行うことで、認知や理解度を深める活動を行います。



(写真3：推奨した商品にPOP)



(写真4：ポスターで説明掲示)

食品	カレー・シチュー・パスタソース・粉スープ・酢・食用油・しょうゆ・料理酒・ケチャップ・マヨネーズ・ドレッシング・チョコレート・ソース類・米菓・ミートデリカ・ロールパン・だし・プリン・ゼリー・ヨーグルト・シリアル・ジャム・はちみつ・お茶・コーヒー・紅茶・味噌・レンジごはん・PETボトル飲料・カップ麺
生活雑貨	ボディソープ・シャンプー・リンス・せっけん・洗顔フォーム・メイク落とし・入浴剤・マウスウォッシュ・歯磨き粉・歯ブラシ・歯間ケア・フェイスシート・ハンドソープ・台所用洗剤・食品用ラップフィルム・洗濯用洗剤

(表：今までに計測をおこなった商品カテゴリー一覧)



(写真5：岐阜県大垣市アピタ大垣店)



(写真6：神戸市東灘区ダイエー甲南店)

～普及啓発活動～

消費者が実際に商品を買う場において、適切な情報提示とその認知が必要であるとの考えから、現場重視型の活動を行っています。また、新聞やテレビなどのマスメディアへの広報活動に努め、より多くの人にマークの認知と内容の理解を広めていくことで、マークの掲示されている商品の購入経験のある人を増加させていく活動も行っています。



(写真7：減装学校)



(写真8：減装生活)

買い物だけでのコミュニケーションだけでなく、地域の児童館や小学校などにも出向き、子供たち向けに容器包装ごみの学校（写真7：減装学校）を行ったり、地域の婦人会の方100人以上にご協力をいただき、実際に家庭から排出される容器包装量の計測実験を2週間おこなってもらった（写真8：減装生活）など、地域に入り込んでの減装ショッピングの普及啓発活動も同時に行っています。



（写真9：減装カフェ）



（写真10：減装カフェ）

さらに、生活者の消費行動や生活の中での気づきなどを知るために、「減装カフェ」（写真9，10）と名付け、ごみじゃぱんの学生と一般の消費者（主婦やその家族など）がお茶とお菓子を共にしながらテーマを絞って語り合う活動を1か月に1度程度行っています。学生中心の活動のため、意識や知識、感覚が若年層に偏ってしまう可能性があり、実際に日常の買い物をしている人々の生の声を聞き、現場の感覚を見失わずに提案するための企画プレ調査でもあります。

以上の通り、ごみじゃぱんの活動の特徴は、①神戸大学の学生が中心となっていて行っていること②ステークホルダー（消費者・メーカー）に対して、WIN WIN 関係を提案している点です。学生が考えた企画をベースに実社会の店舗で展開され、その活動をメーカー（一部メーカー：減装研究会という名で現在メーカー6社が会員）が支援している点が他活動との差別性でもあります。さらに流通及びメーカー、生活者を学生がつかないでいっている点においてもこの活動の特徴をさらに強めている要素でも考えています。店頭や地域での活動だけでなく、2011年7月より山崎製パンのパンに減装マークをつけて全国販売されるなど、より広く、確実に活動の影響が広がり始めているといえます。



■これまでの歩み

2007年

簡易包装を買おうプロジェクト

神戸市東灘区
六甲アイランドを
実験フィールドとして
コープこうべ1店舗で
1か月間初の
社会実験となる
推奨販売実験を
行いました。
仮説の実証実験をする
団体として、
ごみじゃぱんが
誕生しました。



2008年

減装ショッピング08

神戸市東灘区の
ダイエー2店舗、
コープこうべ2店舗
3か月間にわたり、
07年の実験成果を
もとに規模を大きく
して同様の効果が
得られるかを
実証しました。



2009-2010年

減装ショッピング09-10

神戸市東灘区の
ダイエー1店舗、
コープ1店舗、
神戸市北区の
ジャスコ1店舗で
1年間の長期にわたる
実験を行いました。
どこまで店頭での管理
が可能かを検証する
ことが課題でした。



2011年～

減装ショッピング11+

神戸市全域の
ダイエー22店舗で
全市展開になり、
山崎製パンから
減装マークを印刷
した商品も全国発売
になり、さらに大垣市
へ初の他府県進出
を行いました。



■実験結果一覧

	2007年	2008年	2009-2010年	2012年
推奨対象品目	・生鮮食品を除く、加工食品 ・洗剤等生活雑貨			
推奨商品数	280	1474	1146	119
実施期間	1か月	3か月	1年	2週間
実施場所	神戸市 六甲アイランド (コープこうべ)	神戸市 東灘区 (コープこうべ・ダイエー)	神戸市 東灘区・北区 (コープこうべ・ダイエー・ジャスコ)	神戸市 北区 大垣市 (ダイエー・ユニバー・ドラッグユタカ)
店舗数	1	4	3	特別実験3店舗+22 (ダイエー神戸市内直営店)
包装ごみ発生抑制量	包装ごみ発生抑制量 43.2kg 包装ごみ発生抑制 原単位 1.9kg/ (年・店・推奨商品)	包装ごみ発生抑制量 1,180kg 包装ごみ発生抑制 原単位 0.8kg/ (年・店・推奨商品)	包装ごみ発生抑制量 第1期: 65.1kg (3店舗9ヵ月394推奨商品) 第2期: 108kg (3店舗3ヵ月1,146推奨商品) 包装ごみ発生抑制 原単位 第1期: 0.07kg/ (年・店・推奨商品) 第2期: 0.13kg/ (年・店・推奨商品)	包装ごみ発生抑制量 6kg 包装ごみ発生抑制 原単位 0.44kg/ (年・店・推奨商品) (2週間の特別実験 における結果)

※包装ごみ発生抑制原単位とは、推奨したことによる発生抑制量を1店舗年間1推奨商品あたりに計算した削減量です。

■今後の減装ショッピングの進展

・新企画について

グリーン購入ネットワークさんと2012年10月に「500万人グリーン購入一斉行動企画「だれでもできる！減装ショッピング！（仮案）」のコラボレーション企画を考えています。

地域や規模、具体的な実施内容については、現在企画中です。ご期待ください。

「ごみじゃぱん減装（へらそう）研究会」について

- 正式名称 「ごみじゃぱん^{へらそう}減装研究会」
- 会員 キリンビール株式会社、日本ハム株式会社、
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社、株式会社マンダム、
山崎製パン株式会社、レンゴー株式会社（50音順）
※2012年6月時点
- 会長 松村明彦 日本ハム株式会社社会・環境室室長
- 企画運営 特定非営利活動法人ごみじゃぱん
- 設立 2009年10月6日
- 設立趣旨と目的
日本の容器包装を減らすという社会課題解決に賛同し、「減装ショッピング」に協賛する企業と特定非営利活動法人ごみじゃぱんによる研究会で、任意組織として設立。生活者に対し、自社ブランドのマーケティングではなく、産官学民連携で社会全体を良くするためのマーケティングを開発していきます。
容器包装ごみの減量は、容器包装を設計しているメーカーだけでは達成が困難であることを認識。生活者の商品選択基準に容器包装が加味されることで、社会全体で、容器包装を自然に減少させことを達成目標に活動していきます。
- 主な活動
 - 1) 「減装ショッピング」に協力し、実験店舗における売上動向分析や意識調査を実施することで、生活者に対する効果的な情報提供手段を研究・開発。
 - 2) ごみじゃぱんが企画・運営し、流通企業と協力しながら、小売店での「減装ショッピング」の円滑な推進の模索。
 - 3) メーカー、生活者、学生の協働によって「減装商品」の開発への試み。
 - 4) 特定商品による比較販売実験など、必要に応じて目的達成のための実験・調査等を実施。

特定非営利活動法人ごみじゃぱん

- 【設立】 2006年9月6日（内閣府認証）
- 【代表】 石川雅紀（神戸大学大学院経済学研究科 教授）
- 【事務局】 ・所在地 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学内第2研究室107号
TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006
・事務局長 小島理沙（神戸大学大学院経済学研究科 非常勤講師）

【発足の経緯と活動内容】

2005年10月、ごみゼロパートナーシップ会議がまとめた「簡易包装普及のためのシステム検討委員会平成15年度報告書」で立てられた仮説「ごみ問題を知り、インセンティブが与えられれば、生活者（消費者）の消費行動が変わる＝ごみが少ない商品選択を行う」を実証すべく、有志が集まりNPO法人設立を決定。日本包装学会元会長であり、長年に渡ってごみと環境の研究を重ねてきた神戸大学大学院経済学研究科教授・石川雅紀を代表に、社会人及び神戸大学の学生が中心となって発足しました。発足以降、産官学民の連携で無理なくごみを減らせる社会作りを目指すNPO団体として、社会全体でごみの発生を抑制し、発生したごみは出来るだけ適切に処理していく活動を企画・展開しています。

《本件に関するお問い合わせ先》

特定非営利活動法人ごみじゃぱん事務局 開局 平日午後1時～5時
TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006 メール info@gomi-jp.com
ホームページ <http://gomi-jp.jimdo.com>